

免疫賦活作用 (RAW264 細胞 NO 産生誘導作用)

【要旨】: 株式会社ホクガンが製造するオキナワモズク由来フコイダンに免疫賦活作用が認められるか、免疫賦活作用及び抗炎症作用に関与するマクロファージの細胞モデル RAW264 が産生する NO (一酸化窒素) から自然酸化により生成する NO<sub>2</sub> イオンを測定することによって、検体の NO 産生誘導作用(免疫賦活)を評価した。

【材料および方法】: RAW264 細胞を 96 ウェルプレートに播種し、125、62.5 及び 31.3  $\mu\text{g/mL}$  の各試験液を添加した(検体の終濃度は 62.5、31.3 及び 15.6  $\mu\text{g/mL}$ )。培地のみを加えたものを陰性対照、LPS[和光純薬工業株式会社](終濃度 0.1  $\mu\text{g/mL}$ )のみを加えたものを比較対照、フコイダン[SIGMA 社製]を終濃度 50  $\mu\text{g/mL}$  となるように加えたものを陽性対照として同様に試験を行った。

【結果】: ホクガンフコイダンには濃度依存的に NO 産生率を誘導する機能があることがうかがえた(ただし 62.5  $\mu\text{g/ml}$  と 31.3  $\mu\text{g/ml}$  で有意な差は確認できなかった)。陽性対照のシグマ社製フコイダンと比較しても NO 産生誘導能が高いことが確認された。

